

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	文学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 大学院指導教員の研究専念時間を確保する。	→担当科目数の適正化と職務分掌の公正化(時間数)。外部研究資金への申請数、採択数、採択率。	B	B	B	B	/
2. 大学院生の研究成果発表を促進する。	→大学院生の研究成果発表数。	B	B	B	B	/
3. 教育研究を支援する環境や条件の整備; 個人研究室の整備、教育設備・機器の充実化を継続する。	→個人研究室使用に関するニーズアセスメントのデータ。	C	C	B	A	/
4. 学内倫理委員会による「人を対象とした臨床・調査・実験研究」倫理規程を厳格に適用する。	→学内倫理委員会の審査を受けた研究申請数。	C	C	B	A	/
5. 各種研究助成金制度(個人研究費、学会出張費、大学の国際発表助成金制度)の継続的発展を確認する。	→各種助成金成果報告書	B	B	B	A	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2012年度の文学研究科教員の新規科研費採択課題数は9件で、新規採択率60%というきわめて高い水準を達成しており、研究環境は好条件にあることがうかがわれる。大学院における実際の担当科目数は受講者の有無などにより流動的で、適正なあり方について判断しにくい。
目標2	大学院生の研究成果の発表を促すための研究支援制度を設けているほか、各専攻や領域が持つ紀要、年4回刊行の人文学会機関誌「人文論究」により院生の研究成果の公表を可能とする環境を整えている。2012年度に研究支援制度を利用した院生数は20名、「人文論究」に研究成果を発表した院生は11名であった。
目標3	2012年に新築された第一教授研究館の個人研究室の平均面積は22.3㎡で、好適な教育研究環境が整備されている。文学研究科に關係する高額図書整備も、戦略的研究基盤整備事業などにより、順調に進んでいる。
目標4	2012年度の「人を対象とした臨床・調査・実験研究」への申請者・申請数は専任教員3名4件、契約助手・大学院生・研究員7名7件であり、すべて承認または条件付承認であった。
目標5	2012年度に文学研究科（文学部）教員による個人研究費不正使用問題が発覚したことから、これに厳正に対処するとともに、全学レベルでの制度見直しと併せて文学研究科教員を対象とした研究費適正利用についての講習などを重点的に行った。
備考	